



# 謹んで新年の お慶びを申し上げます

令和7年正月  
医療法人徳洲会 札幌東徳洲会病院  
病院長 山崎誠治

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。5年前に、全世界を一変させたコロナ禍は完全に過ぎ去り、人の往来も回復し、行事などもコロナ禍前と変わらず行われるようになり、明るい年越しができたのではないのでしょうか。

昨年を振り返りますと、元日の能登半島地震に始まり、各地で地震や豪雨など自然災害が相次ぎ、さらに8月の日向灘地震では南海トラフ巨大地震の臨時情報の発表により、緊迫した状況となるなど、改めて危機管理、防災対策の重要性を認識した年でありました。

また一昨年に、新型コロナウイルス感染症が5類になって以降、感染対策が緩んだこともあり、コロナ禍にはなりを潜めていた種々の感染症の流行が顕著になり、特に秋以降、マイコプラズマ感染症、新型コロナウイルス感染症、そしてインフルエンザの3つが同時に流行する「トリプルデミック」の状態となり、医療提供体制のひっ迫が懸念されております。

一方、昨年の「今年の漢字」に選ばれたのは「金」。それを象徴するような、パリオリンピックでの、北海道旭川出身の北口榛花選手のやり投げ金メダル、男子体操での徳洲会体操クラブの岡慎之助選手の個人・団体総合2冠獲得、同体操クラブの杉野正亮主将も大いに貢献した、団体総合金メダルなど明るい話題もありました。

当院におきましては、能登半島地震発生を受け、厚生労働省からの要請により、災害派遣医療チームDMAT

(ディーマット)を派遣し、被災地の医療に貢献することができました。

また、4月には道内初のハイブリッドER(救急外来)が稼働し救急診療・治療に大きな成果を上げております。救急車受け入れは、ほぼ100%を達成し、地域の救急救命に大きく貢献しました。

さて、令和7年の干支は「乙巳」。

「乙」は発展途上の状態、植物が成長し広がっていくような意味合いです。柔軟性や協調性を象徴し、周囲との調和を保ちながら自身の目標に向かって進んでいく力を表しています。

「巳」は植物が最大限まで成長した状態を意味し、これまでの努力や準備が実を結び始める時期を示唆しているといわれます。また「巳(蛇)」は、古くから神の使いとされ、たくましい生命力があり、脱皮をするたびに表面の傷が治癒していくことから、医療、治療、再生のシンボルともされています。

「乙巳」の組み合わせは、変化とこれまでの努力や準備が実を結び始める時期を示唆しています。皆様にとりましても、明るく希望を持って、報われる一年になるのではないのでしょうか。

当院におきましては、引き続き「断らない医療」、「24時間オープン」の信念のもと、2025年、乙巳、変化と成長・発展の年にふさわしく、更なる充実した医療を提供すべく職員一丸となって、歩んでまいります。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。